

町長と語ろう!



町内のグループ・団体・町内会などが直接、町長と語り合う「町長と語ろう」。3月4日、町内のフロアカーリング愛好者7人が、フロアカーリングを通してのまちづくりについて熱心に語り合いました。

●●●フロアカーリングを通してできるまちづくり



種吉 忠彦さん

◆種吉さん 私が所属する老人クラブ連合会老連フロアカーリングクラブは、平成21年に設立されて今年で丸5年目。会員はおよそ120人で、毎週火曜日に社教センターで活動しています。老連に加盟しているので、施設利用料を免除していただいています。設立当時は会員の減少や高齢化により休会中の単位老人クラブがありました。フロアカーリングをしたくても地域のクラブが休会中で利用料の減免措置の対象にならない人があり、その差を無くすため「地域でクラブに加盟しよう」ということで活動が活発化。フロアカーリングが火付け役になりました。

地域が地域の役に立つようなことをしていこうというのがこのサークル活動の原点ですので、会員が町主催の行事に参加するなど、町で行っていることに少しでもかかわることで、まちづくりに貢献できたらと思っています。

◆福井さん 高齢者がフロアカーリングで交流を図り、健康を持続することがまちづくりに貢献することだと思いますので、続けるためにも施設利用料の免除措置の継続をお願いします。



福井 昭一さん

◎町長 健康寿命を長くするためにスポーツ人口が増えればと思っていまいたが、休会中だった老人クラブの活動がよみがえるなど、これほど大きな力になるとは想像していませんでした。

町民の中には「町に言えば、どうにかしてくれるだろう」という風潮も根強くありますが、皆さんが主体となってフロアカーリングクラブを運営することは、「協働」の取り組みにもつながっています。町民による協働のまちづくりのきっかけをつくっていただけなので、これからも期待しています。

●●●クラブを支えるリーダー

◆千秋さん フロアカーリングは誰もがいがみ合うことなく、楽しくできるので、愛好者がどんどん増えています。

フロアカーリングをさせてもらうのはいいのですが、前に立って役員をする人がいない。「いやだ」と言わずに、時には役員をすることも会を広げることになるのかなと思います。

◎町長 どんな組織や会でも、会を引っ張る人がいるかが大きな分かれ道なので、世話役をお願いしても断られるのは一番の課題だと思います。



千秋 幸二さん

「じゃあ私が役員をしようか」と思ってくれる人はなかなかいない。そんな人に恵まれた団体はすごく活発です。

◆種吉さん 会員の平均年齢が75歳くらいなので、新会員を毎年入れなければ、数年後には高齢でクラブが続けられなくなってしまう。役員は会場設営を手伝いするのではなく、クラブの存続のための力になる方だと話しています。70歳くらいで役員を頼むと「若い人に」と言っんですよ。では、70歳以下の人が何人いるかと数えたら数人しかいない。人のために自分自身が中心にならなければという気持ちがあれば、役員を引き受けてくれると思っています。コミュニケーションがこういう団体には必要ですよ。

◎町長 先に立つてくれる人を周りが支えようという態勢があれば、意外と役員を受けてくれる。でも、そのポジションについてしまうと、つい「自分がいなければ」と思い込んで、孤立してしまうこともありますよね。

◆種吉さん 団体のムードにもよると思います。自分たちのクラブをほめるのもなんですが、フロアカーリングの会場準備は役員に頼まなくても、会員が自発的に行っています。



三好 桂子さん

高齢者の健康維持に

◆三好さん フロアカーリングは私としては「心のケア」。競技で失敗しても、みんなで手をたたいて喜んで笑って帰るとすっきりしますね。道具も要らないし、体ひとつで楽しめる最高のスポーツだなと思っています。

◎町長 北海道は冬の運動不足がネックですから、冬でも気軽にできるフロアカーリングが定着してほしいと思っています。一年を通して、男女の差もなくできるようですから、みんなに勧めていただきたいです。

◆内田さん 老人会の泉栄コアラ会にも所属し、フロアカーリングを社教センターと泉栄防災センターで月に8回しています。体を鍛えることで病院にかかることが減り、医療費も減っています。私自身もですが、町にとっても、わずかですが医療費の削減で貢献できているのかなと思っています。

◆鈴木さん 穂吉さんから誘われて、夫婦で参加しています。もともとスポーツは苦手で、図書館の方が好きなタイプでしたので、フロアカーリングを通じて、健康な夫婦として暮らしていければ幸せかなと思っています。

内田 愛子さん



鈴木 信正さん



関口 静香さん

◎町長 国を挙げて長寿社会をめざしてきたのに、いざ高齢化社会が現実のものとなつてみると、社会保障費や医療費が増えているなど暗いイメージがあります。上富良野町は「長生きしてよかった」と実感できるような町にしたいと思います。

生きがいはスポーツだけではなく、文化活動からも見出す必要があると思っていますので、そこにも力を入れなければと思っています。

活発に活動するための課題

◆内田さん フロアカーリング大会で新得や当別町へ行くときに、町の福祉バスを活用させていただきました。大会では上位の成績を取ることができ、上富良野町の知名度も上がったかなと思っています。どちらにしても、老人クラブに対しての町の配慮はありがたく思います。

◎町長 移動手段の確保は大きな課題です。小・中学生や少年団の活動も非常に活発で、青少年の育成に大きな力を発揮していますし、高齢者のスポーツ交流をはじめ、いしずえ大学なども活動に意欲的です。町の活力を高める

ためにも、皆さんの活発な活動を支えられるよう、これからの政策展開で反映させていきたいと思っています。

◆関口さん フロアカーリングをしていて、会員の皆さんから冬の移動手段が困ると聞きます。乗合タクシーも時間的になかなか合わない。他の人を自分の車に乗せて会場に行くにしても、交通事故の心配が常にあります。このあたりを、町でも少し考えていただきたいと思っています。

◎町長 手段を考えることは可能ですが、問題は利用と負担のバランスです。町がかかわれば全て低額料金とはなりません。さまざまな知恵を出し合つて、積極的に取り組んでいきますので、ご意見をお願いします。

フロアカーリング大会で観光PRを

◆穂吉さん 町への貢献のために大切なことはできませんが、クラブとは別に、フロアカーリング協会が上富良野町で全道大会を行う構想を立てています。全道から選手だけでも250人が集いますので、ラベンダーシーズンの7月ごろにできれば、多くの人を町に呼べるかと。遠方からの参加者には泊

していただいて、ラベンダーを見て楽しんで帰っていただきたいです。

◎町長 町の魅力を高めていこうというところで、今年度から日の出公園のラベンダーの全面植え替えを行っている



ところ。大会参加者が「上富良野はラベンダーの町」と感じてもらえるよう、魅力をアピールしたいと思います。ぜひお願いします。

◆穂吉さん 今回の整備で、多くの町民が「今度、行ってみたいね」と言っような公園にしてください。

◎町長 私も、ラベンダーについてはかなりの思いを寄せております。公園と併せて、見晴台公園の十字路から旭野に向かう道々沿いのラベンダーもよみがえらせる準備をしています。ラベンダーの町と言い続けながらも、本当はそうではなかったので。

◆穂吉さん 自分が行ってみたいと思わないところには、人は案内しませんから。ディズニールランドくらい魅力的でなければと思います。

◎町長 フロアカーリングのグループができ、どんどん広がっているということが大変うれしいと感じています。自分たちで考えて行動する活動そのものが、既にまちづくりに貢献していただいています。「長生きしてよかったな」と実感していただけるように、町としても努力していきますので、引き続きよろしく願っています。

問合せ 町民生活課自治推進班

☎69985